

# 「救急対応講習会の現状と課題」

◎ 岩崎弘子 本田隆博 岡田邦彦

救急対応教育委員会 高松正人 伊沢敏



JAE長野県生体佐久総合病院

〒261-8511  
長野県佐久市1-1-7  
TEL: 026-224-1111

## 背景と目的

医療安全全国フォーラム 2010年11月26-27日  
幕張メッセ 国際会議場

当院では2001年10月から2008年3月まで「看護師に対するBLS/AEDスキルコース」を開催してきたが組織的な活動ではなかった。  
2009年に救急対応委員会を設置し「救急対応講習会」と改め、対象を看護師と診療協力部に変更した。

- ① 急変時の迅速対応の体制検討
- ② 医師が駆けつける5分間にできることを実施する
- ③ 何か変、どうすればいいのだろうかという気づく力をつける、ことを目標とした。

## 取り組み

委員会は、救命救急センター/ICU医師3名、看護師11名、診療協力部（理学療法士、臨床工学技士、放射線技士、臨床検査技士、診療情報管理士）5名、事務局3名で構成している。  
月2回の1回3時間、午前と午後の勤務時間内で1回8人コースを実施している。



事前学習DVD  
内容 BLS

- 気づきステーション**
- 受講者1回4人
  - パワーポイントを使いながら実際の事例をもとに気づく力をつけるポイントを伝えている
  - スタッフと物品を活用し実際にシナリオで観察をする
  - ICUコールの重要性を伝える



OSCE (実地評価)  
シナリオは現場で出たものを出す



修了バッジ

### スキルステーション

- 受講者1回4人
- DVDを見ながら知識と手技の確認をする
- 1G 2人に対して1名の指導者が指導する

### 指導者統一会議

- 各職種で意見を出し合う
- わかりやすい指導の考え方を話し合う



- 技術的な指導に格差が出ないようにする

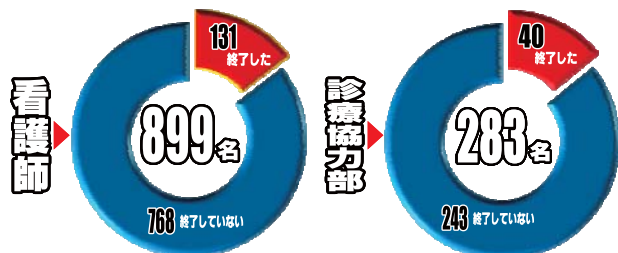
修了者にはアンケートを実施している。

指導者となる医師、看護師、診療協力部の指導統一を図るために会議を持ち、指導者のスキルを維持するために院外セミナーに参加している。

院内急変時はICUをコールし、医師が駆けつけるシステムを取っている。

## 結果

1年間で看護師131名、診療協力部40名が「救急対応講習会」を受講した。



- 指導者の負担がある。（月1～2回、1日の指導）
- 2009年度ICUコールは47件であった。
- 診療協力部からのコールも含まれていた。
- アンケート結果  
「気づきを学ぶことは大切」  
「1年に1回は講習を受けたい」などが多かった。
- RRS（早期対応態勢）につながるシステムか否かは検討されていない状態である。

## 考按

受講対象者が多いため全員が受講するまで時間がかかる。

組織で取り組むことで人員・場所・物品の確保は容易になった。

委員会メンバーを増員し、指導者の負担軽減を図っていく。

対象を診療協力部にも広げることで、院内急変に対する意識改革につながった。

急変時の迅速対応は、BLS/ALSスキルだけでは不十分で、気づく能力が必要であるということも組織として共通認識することができた。

RRSにつながるシステムにするには内容を再検討し、評価と修正をしていく必要がある。

(c) 佐久総合病院